

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は、変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

<エントリーシート> ※事務局記入欄 No. : A - 8	部門 研修成果活用部門 (平成30年度カリキュラム・マネジメント指導者養成研修)	学校名・氏名 大分県教育庁義務教育課 後藤竜太
	活動名 各学校におけるカリマネの実現 —評価手法の活用を踏まえて—	

課題の設定： ※活動を行う前に、課題や目標をどのように設定しましたか？視点などを含めて記載してください。

学校の教育目標の達成に向けた具体的な取組を全教職員で推進する方途を見出すことができる。
 ・県内の小中学校の教務主任を対象に、学校の教育目標の達成に向けた具体的な取組や方途について、「評価から始めるカリキュラム・マネジメント」の体験を通して見出した自校のよさや課題の共有と改善策及び体験した手法を学校評価と関連付けて実施することを目的とした。

方針・計画： ※課題を解決するために仮説を立てて、活動内容を組み立てたのか、記載してください。

・評価手法を体験し、明らかになった自校のよさについての取り組み方を共有したり、課題についてアドバイス合ったりして評価手法のよさを実感する。
 ・評価手法を自校の学校評価と関連付けることによって、成果と課題を明確にすることが可能。さらに、その結果について全教職員で協議し、その解決のための具体案を立案することにつながる。

活動内容： ※方針・計画に基づいてどのような活動を行ったか、また、複数の活動を展開した場合はその位置づけや関連性を記載してください

・評価手法 (SBCDE) を体験する。
 ・体験して明らかになった自校のよさを共有し、課題についてのアドバイスを交流する。
 ・カリキュラム・マネジメントを学校全体で進めている県内の小中学校による実践発表。

活動の成果： ※課題や目標に対し、どんな影響、変化あったか、職員や参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

・4件法によるアンケート結果、99.2%の参加者が「参考になった」と回答。
 ・学校の教育目標の見直しのプロセス等について、県内の小中学校の実践発表を位置付けた。教務主任として今後どのようなことに取り組んでいけばよいのか、具体的な方途を見出すことができた。
 ・学校の教育目標を全員で話し合って決め、ベクトルをそろえることの重要性の理解。
 ・体験した調査方法 (SBCDE) 他の職員と取り組み、間主観的に考えることへの意欲の醸成。
 ・今回の協議を機会に、客観的で多様な観点での学校評価に取り組んでいきたいという機運の高まり。

アピールポイント (アイデアや工夫)： ※3~5つ程度の箇条書きしてください

- ① カリキュラム・マネジメント指導者養成研修で実際に作成した成果物の画像でイメージを持たせた。
- ② 評価手法の具体的な取り組み方や、自校での活用方法について理解させることができた。
- ③ 学校評価の項目の見直しやカテゴライズする必要性に気付かせることができた。
- ④ カリキュラム・マネジメントを全教職員で行うことのイメージを持たせることができた。
- ⑤ 実践発表により、今後取り組む方向性を見出すことができた。

<写真、図表添付欄>

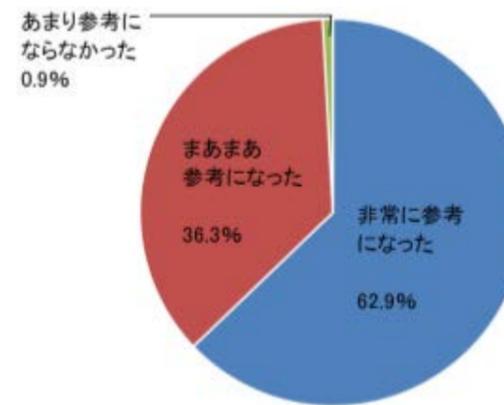
【写真1】評価手法の体験



【写真2】評価結果の共有と交流



【参加者の感想等】



【参加者の感想等 (一部)】

- 演習をした他地域の方との交流により、学習が深まり、自校の見直しもできた。今後に生かしたい。
- 評価結果をレーダーチャートに反映することで、本校の課題が見えてきた。今後どう授業や研究等について取り組んでいけばよいのか参考になった。
- SBCDE という手法により、自校の教育活動を見直すことにつながった。学校に持ち帰り、全教職員で取り組んでみたい。

【今後の取組】

